

## 子ども支援団体に共通の 課題解決を支援する試み

ユースソーシャルワークみやぎとの共同事業として、  
「子ども支援の現場を担う人材の確保や育成」に、  
「団体協働型」で取り組むモデルづくりへのトライアルを始めました。



### 複数の団体との協働で、 子ども支援の環境づくりを加速する

助成事業を通して、全国の子ども支援団体とのつながりが生まれる中で、現場を担う若手人材の確保と育成は多くの団体に共通の大きな課題であると認識しました。この課題意識を背景に、2017年に

宮城県で設立された「ユースソーシャルワークみやぎ」との共同事業として、「子ども・若者を支える支援者の養成および支援者間のネットワーク・コミュニティ創出・モデル化事業」がスタートしました。

# 子ども・若者を支える支援者の養成および 支援者間のネットワーク・コミュニティ創出・ モデル化事業

若手人材の確保と育成で  
子ども支援をさらにサポート



## 事業の枠組み

子ども支援の現場の共通課題に対して、当財団自ら、課題解決のモデルづくりに参画。



宮城県内の3団体（TEDIC、アスイク、チャンス・フォー・チルドレン）が中心となり、リソースを補い合い地域で人材育成を進める枠組みとして、任意団体「ユースソーシャルワークみやぎ」を設立。育成企画の立案と運営を推進。

ベネッセ子ども基金は、他エリアでの展開も視野に、活動のモデル化やノウハウの共有、社会発信を推進。

## 事業の背景

年間を通じた、助成団体訪問や交流会の実施などにより、団体共通の課題を把握。重要課題については自主事業としても取り組む。

### 助成事業を通じた 団体とのコミュニケーション

応募内容分析、助成団体訪問、  
助成団体交流会等、年間を通じて実施



### 団体共通の課題把握

- 子どもの抱える課題の複雑さ  
・貧困 ・虐待 ・いじめ  
・不登校 ・発達状況 など
- 対応できる人材の不足
- リソースの不足・偏りによる、  
個別の団体での対応の難しさ  
など

### 共通課題への取り組み

#### 本共同事業

「子ども支援の現場を担う  
人材の確保や育成」に、  
“団体協働型”で取り組む  
モデルづくりへのトライアル

## INTERVIEW



ユースソーシャルワークみやぎ  
代表幹事  
NPO法人TEDIC 代表理事  
門馬 優さん

### 地域で連携し、担い手を育てていきたい

地域に根差した活動を続けるなかで、受け取る子どものSOSも増えてきました。今よりもっと多くの子どもの声に応えるために地域の人的リソースを拡大したいという思いを持つ一方で、一団体だけの活動では限界があることも感じていました。ならば、思いを同じくする団体は他にもあるのでは…と地域内の

団体間の対話を進めるなかで、若手支援者の拡充と支援力育成、団体を越えた横の繋がりを意識した今回のスキームを実現できました。

今後は、支援者のキャリア支援も意識しながら、このコミュニティを育てていきたいと考えています。

# 共同事業の柱（研修事業） 「ユースソーシャルワーカー 養成講座」

本事業では、広域にわたる宮城県内の子ども・若者支援の基盤づくりを意識し、団体の現場を支え、時に孤独にもなりがちな若手人材の日々の活動のサポートに焦点を当てた研修事業が柱となりました。

## 概要

●実施時期／回数：  
2017年9月～2018年3月／  
毎月1回・計7回

### ●事業の狙い：

- ①困難を抱える子ども・若者を支えるワーカー育成
- ②若手の人材間のネットワーキング

### ●内容：

他地域で先行事例を持つ団体の方を講師に迎えた講座と、参加者同士がグループに分かれてそれぞれのケースを検討しあう実践ワークの2部構成

日程	研修内容・講師	※敬称略
第1回 2017年9月17日（日）	オープニングガイダンス、チームビルディングワーク、省察記録の書き方 講師：公益財団法人京都市ユースサービス協会 竹久 輝顕	
第2回 10月15日（日）	困難を抱える子ども・若者の総合的な理解 講師：NPO法人こどもソーシャルワークセンター 理事長 幸重 忠孝	
第3回 11月19日（日）	対人援助の背景理解、アウトリーチも含む総合的な支援実践 講師：NPO法人NPOスチューデント・サポート・フェイス 代表理事 谷口 仁史	
第4回 12月17日（日）	まちづくりの視点から子ども若者へ伴走的支援 講師：NPO法人暮らしづくりネットワーク北芝 ユースワーカー 松村 幸裕子	
第5回 2018年1月21日（日）	ワーカーとしての自分を振り返る① 講師：NPO法人TEDIC 代表理事 門馬 優、NPO法人アスイク 常務理事 鈴木 綾	
第6回 2月18日（日）	ワーカーとしての自分を振り返る② 講師：NPO法人TEDIC 代表理事 門馬 優、NPO法人アスイク 常務理事 鈴木 綾	
第7回 3月18日（日）	修了報告会	

## 第1部



### 他地域の実践者による講座

子どもを支えるユースワーク、ソーシャルワーク両方の領域の実践者を他地域から迎え、レクチャーやワークショップ形式で学ぶ。  
地域の子どもの支援の現場の担

い手として、全国の先進事例の実践者から直接話を聞いて学びながら、どのように社会のリソースを活用し、支援の枠組みを組み立てていくかについての知見を学ぶ。

## 第2部



### ケースを検討しあう実践ワーク

受講者が日々の現場で経験したケースの記録（あらかじめ個人が特定できないよう加工）を持ち寄り、その観察に対するコメントや、対応についての意見交換などを行う。

第一部の講演者が  
テーブルに参加することも

参加者間だけのワークでなく、講座の事務局が事前にすべてに目を通してアドバイスをするなど、若手支援者としての実践力を身につける場に。

## 参加者・主催者からの声

### 参加者：宮城県内から20名

※母体となった3団体のほか、民間支援機関や行政関係機関からの参加者もあり。

誰かのSOSを自分事として受け取りながら、相手と一緒に進める存在になりたい。  
(参加者)

今回の学び内容は、学校でも実践できるのでは？と思っている。  
(参加者)

自分を「ありのまま」に認められる子ども・若者を育てられるワーカーになりたい。  
(参加者)

周りを巻き込み、よりよいソーシャルワーカー環境をデザインできるワーカーになりたい。  
(参加者)

後半になるほど、参加者の子どもを観察するレベルの高まりを実感した。  
(運営側)



## 取り組みの社会発信 ファンドレイジング・日本 2018

今回の「ユースソーシャルワークみやぎ」との共同事業については、アジア最大のファンドレイジングカンファレンス「ファンドレイジング・日本 2018」（2018年3月開催）のセッションという形で活動報告も行いました。

CANPANセンター山田さんの  
司会で議論が深まる！



### 担い手人材の育成の重要性の議論が白熱

セッションには、ユースソーシャルワークみやぎ門馬代表幹事に加えて、同じく人材育成事業に首都圏を中心に取り組むNPO法人PIECESの荒井佑介副代表、助成や評価に知見の深いNPO法人CANPANセンターの山田泰久代表理事にも登壇いただきました。子ども支援に取り組む団体や助成財団等100名以上の参加者

を前に、「地域性」「ファンドレイジング」「事業の評価」などの切り口から、実践事例を共有。

多くの団体で課題と感じながらも、実践が難しい担い手人材の育成の重要性を広く共有するとともに、助成団体を支援する側の今後の支援のあり方を考える機会にもなりました。

### 参加者からの声

資金調達や人材育成の話はなかなか聞けないのでよかった。  
(現場団体)

受託事業では要求のレベルがどんどん高くなる一方で、現場で活動できる人材が少なくなっている。  
(現場団体)

短期的に現場人材の育成は急務だが、長期的な視点での事務方人材育成も重要で、バランスが難しい。  
(助成団体)

県内全域を対象に人材育成をしていく方法論に活動のヒントを得られた。  
(中間支援団体)

## INTERVIEW



NPO法人アスイク 常務理事  
NPO法人しんせい  
鈴木 綾さん

### それぞれのリソースを活かした課題解決の取り組み 他地域にも応用できる活動を目指して

困難を抱える若者・子どもの支援者を育成するしくみやプログラムの整備は、介護などの他の領域と比較してまだ十分に確立されているとはいえません。そして、現場を担う若手に向けて開かれた学びや研鑽の機会となると、さらに少ないのが現状です。こうした課題に、現場の団体と周囲の専門家や中間支援団体が、時間・

予算・知見などそれぞれのリソースを活かしたサポートを行い、ひとつの課題解決に取り組んだことに、今回の大きな意義があります。

団体の現場サポートや人材育成企画にも多く関わっていますが、この活動は他地域でも活かせる観点があると感じています。

## 今後は「人材育成」以外の共通課題への取り組みも検討

本事業では、仙台・石巻エリアにおける、「地方」「現場・若手」に注目した活動内容となりました。今後は他地域にも応用できる観点を明確にしつつ、地域の実

態に応じた異なるモデルも考慮すべきだと考えています。

また、取り組むべき共通課題は、今回のテーマ以外にもありますので、テーマ

に応じ、適切な連携の枠組みを検討しつつ取り組みを広げていきたいと思っています。